

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800358		
法人名	株式会社 クオス		
事業所名	グループホーム ほのかの里		
所在地	夕張郡栗山町桜丘1丁目80		
自己評価作成日	平成27年2月25日	評価結果市町村受理日	平成27年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>その人らしい、ゆったりとした生活ができるよう心がけています。</p>

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0175800358-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成27年3月10日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>JR栗山駅から車で5分程の、近くに栗山公園やホームセンター、スーパーなどがある便利な住宅地に位置する平屋建て2ユニットのグループホームである。前庭に東屋が設置され、利用者同士で外気浴を楽しむことができる。居間は窓が南に面し、天井にはトップライトもあり、明るく開放的である。食堂と居間を中心に各居室があり、トイレや浴室はプライバシーが保ちやすい場所に配置されている。地域との交流が活発で、事業所の夏祭りに住民が参加して町内会の方が食事作りを手伝ったり、利用者が散歩する際には近隣の方に犬や猫を見せてもらいながら交流している。また、事業所の避難訓練にも地域の方の参加を得ている。利用者の安全や快適さのため、セントラルヒーティングや電動ベッド、エアーマットなどの設備や備品を徐々に整えている。医療支援の面では、協力医による往診の機会を確保するとともに、個々のかかりつけ医への通院支援も事業所で行っている。食事の面では彩りの豊富な食事が提供され、畑で採れたトマトやピーマン、キュウリなどの野菜も提供し、季節感が楽しめるようにしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(Aユニットアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど揃っていない		○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど揃っていない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は作られています。日々その理念を意識しながら実践しています。		4項目の理念の中に「いつも笑顔で 地域とともに」という項目を入れ、地域密着型サービスの意義を踏まえた内容としている。理念を共用部分に掲示しており、職員は理念を理解して実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	通りすがりのご近所の方とご挨拶したり、皆さんと散歩をする際に地域の方とお話ししたりする機会があります。		事業所の夏祭りに住民が参加し、町内会の方が食事作りを手伝っている。利用者が散歩する際には近隣の方に犬や猫を見せてもらいながら交流している。事業所の避難訓練にも地域の方の参加を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	改まってそのような機会はありませんでした。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開く努力はしていますが、まだ目標には到達していません。		運営推進会議には町の職員、町内会役員、利用者家族、管理者などが参加して、防災や外部評価、エコマップ作りなどを話し合っているが、今年度の開催は2回にとどまっている。	年6回の開催を目標としているので、開催回数を増やすことを期待したい。また、開催にあたって会議の予定やテーマを家族に案内したり、会議終了後に議事録を全家族に送付することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話や訪問などで、役場の担当者の方とは密に連絡をとる機会があります。		町の職員が運営推進会議に参加しており、何かあればいつでも相談できる関係にある。介護認定の更新時にも町職員の来訪がある。町から事業所の空き状況の問い合わせがあり、回答している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行われておりません。日中は非常時以外玄関の施錠はせずに過ごしております。		身体拘束は行われておらず、身体拘束のマニュアルを整備するとともに、禁止の対象となる具体的な行為を示した文書を事務所に掲示して共有を図っている。玄関は夜間のみ施錠しており、外出があればセンサーで分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	御利用者様の自宅や事業所内で虐待があるという話は聞かれておりません。			

ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に学ぶ機会はありませんでした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一年間御利用者様の入れ替わりはありませんでした。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪された際に、意見要望を聞く機会を作るようにしていますが、なかなか来訪されない家族が多く、十分に家族の意見を汲み取れていない感があります。	家族が運営推進会議に参加する際や来訪の際に意見を聞き、得られた意見を「申し送りノート」で共有している。毎月「ほのかの里」だよりを作成し、個々の利用者の写真を載せて家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見や提案を発言しやすい雰囲気を作り、出された意見は極力反映できるよう努めております。	2か月に1回を目標にミーティングや勉強会を行う予定としているが、十分に開催されていない。管理者と職員は随時の面談を行っている。細かく係分担当を決めていないが、職員はそれぞれの得意分野を担当している。	職員の意見が反映できるよう定期的なミーティングや勉強会の実施を期待したい。また、職員が運営者と面談したり、管理者を通して意見が運営者に伝わる仕組みづくりを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境は決して悪くないと思います。困った時には助けてもらえる環境整備はなされていると思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は内部研修はありませんでしたが、外部の研修に何度か参加する機会がありました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、あまりないのが実情かと思えます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	充分かはわかりませんが、一人一人が安心できる関係づくりのために努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との関係づくりも、できていると思います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度必要な対応を行っています。特に他のサービス利用の必要は見られませんでした。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	台所の手伝いや、もやしのひげ取り、掃除、洗濯物をたたむなどというお手伝いを、可能な方はなさっております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様は定期的に来訪され、本人の様子を見て、お話しされたり、外出されたりしております。また、夏祭りやクリスマスの際には共に参加していただいております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪などによって、馴染みの人との関係は気付いていけているように思います。	昔、近所に住んでいた友人や習い事を一緒にしていた友人の来訪があり、居室や外の東屋で談話している。家族と一緒に墓参りや外食に出かける方もいる。馴染みの場所である栗山公園や、隣のホームセンターに頻繁に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さんの輪の中に入っている感覚を、レクなどを通して持つ事ができていると思います。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	具体的な相談、支援を行ったことはありませんが、今後機会があれば必要に応じて行いたいと思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のコミュニケーションを通じて、意向を把握できていると思います。	思いや意向を表現できる利用者は3分の1程度で、難しい方の場合も表情や過去の経験から把握している。利用者の情報は「基本情報」や「課題分析(アセスメント)概要」で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主に普段の会話の中から生活歴を把握し、本人の背景を尊重した支援を心掛けております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	無理をしない方が良い方には無理をさせず、出来る事は極力自分でやって頂いております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段の会話から得た情報を基に介護計画を作成しておりますが、御家族の出入りが少ない御利用者様について、十分に情報を得られていないという部分もあります。	介護計画を3~6か月毎更新している。更新時に職員が参加して話し合う場合は少なく、家族への説明も十分といえない。日々の介護経過記録は介護目標を参照しながら記入するようにしているが、ユニットにより差がみられる。	更新時の話し合いに、より多くの職員が参加することと更新計画を家族に郵送した際に内容を説明することを期待したい。また、両ユニットが介護目標を意識した記録を行うことを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個別記録を記入し、情報を共有しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御利用者様の状態に合わせて、その時その時に必要な柔軟な対応を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園や季節を感じられる場所などへ行く機会を作り、暮らしを楽しむ支援を行っています。また、地域の秋祭りなどに参加する機会も作っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週1回、訪問看護師に体の状態を見てもらう機会があり、その他訪問診療を受けている方や、受けなくても近くの病院でその都度医療を受ける機会を作ることができています。	協力医による往診の他、かかりつけ医に通院する方がおり、事業所で通院支援を行っている。受診内容を申し送りノートや業務日誌など記載している。個人毎の「医療関係経過記録」の様式があるが十分に活用されていない。	個人毎の「医療関係経過記録」の様式を活用し、個人毎、時系列に医療関係の記録を行うことを期待したい。

ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と連絡を取りながら、身体的なケアを進めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	11月に骨折によって入院された方がいらっしゃいました。日赤病院とも馴染みの関係で、密に連絡を取り合うことができています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取り」については、すべての御家族に意向を伺い、同意を得ております。この一年間で看取りの機会はありませんでした。	「重度化対応・終末期ケア対応指針」を本人や家族に説明し同意書に署名捺印を得ている。過去には事業所での看取りも経験しており、家族や本人の意向に沿って、できる範囲の対応を行う方針としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	充分周知しているつもりですが、咄嗟のときに必要な対応ができるよう、定期的な訓練が求められていると思います。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っています。	年2回の昼夜を想定した避難訓練を消防や地域の協力のもと実施している。災害時の備蓄品も用意している。一方、職員の救急救命訓練はしばらく実施されていない。	全職員の定期的な救急救命訓練の受講を期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が少ない為に、御利用者様と関わる上で気持ちの余裕が持てなくなる場面もあり、工夫が必要と思います。	職員が大きな声で話したり、「ダメだよ」など、禁止語を使った時は管理者がすぐに注意している。個人記録は利用者から見えない場所で記録し、事務所で適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所されている御利用者様に控え目な方が多く、「何でも良いよ」とおっしゃる事が多いため、職員が促して意思決定することが多くなってしまいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由な気持ちを大切にできるよう、極力無理強いほしくないようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつも同じ服を着てしまう利用者さんに、せっかく備えてある新しい服が着れるよう促すなど、少しでもおしゃれを意識できるような支援を行っています。		

ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には好きなものを選んで頂いたり、おやつ作りを一緒にするなど行いました。また、盛り付けを工夫するなどして、食事が楽しめるようにしました。	誕生日には、炊き込みご飯やチラシ寿司、赤飯など好きな物を提供している。利用者と一緒に「いなり」を作ったり、お好み焼きを焼くこともある。畑の野菜を収穫して旬の味を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量を毎日把握して、意識的に水分が取れる支援を行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っております。口腔内に異常が見られた際には、歯科医師と連携して、治療しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な人にはトイレの定時誘導を行っていますが、極力自立を促しております。極力紙パンツや尿取りパットを使わない努力はしていましたが、現状がバランスのとれた状態ではないかと思えます。	排泄記録でパターンを把握し、個々に応じた声かけをしながら日中はトイレでの排泄を支援している。夜間や座位が保てない利用者は、おむつやパット交換で対応したり、ポータブルトイレを使用することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じて、食物繊維を摂取して頂き、便秘の予防・解消に努めております。また、極力水分を多く摂取するために、お茶ばかりではなく、ジュースなどを時々勧めていきたいと思っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤を使用するなどして、入浴を楽しめる支援を行っております。	日曜日以外の午後の時間帯で、各利用者が週2回入浴できるように支援している。入浴を嫌がる時は職員が交代したり、時間を変えて声かけをしている。入浴介助用の車椅子を準備して、安心して入浴できるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	様子を伺い、休みたい方には休んで頂けるよう促しております。重度化した御利用者様には、昼食後に2時間程度ベッドで安静になって頂くことで、リフレッシュして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬による症状の変化について、全員で気に留めるようにしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事などをしていると落ち着くという御利用者様には、食事の盛り付けや、テーブル拭き、洗濯物を畳むなどの動作を随時手伝って頂いています。		

ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば、出かける機会を作る事は出来ますが、主に御家族と一緒に外出されています。	天候に応じて、車椅子の方も一緒に近隣を散歩したり栗山公園に出かけている。近くのホームセンターで買い物したり、近所の花を観に行くこともある。行事では花見や紅葉狩り、白鳥見物などに車で出かけている。冬季は、通院や家族との外出などで外気に触れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を行っている人はいないのが現状です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コミュニケーションを図れる支援を行っておりますが、本人とご家族との関係性に配慮しつつ、御家族と話をしたい本人の思いに答える工夫が必要と思えます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の悪さは皆さん特に感じられていないと思えます。季節の花を屋内や玄関口に飾るなどして、季節感が感じられる工夫は行っています。また、ソファに座っている御利用者様が、日差しをまぶしいと感じた時には、カーテンを締めるなどの配慮を行っています。	昨年末に、室内をセントラルヒーティングにして安全で過ごしやすい環境を整備している。居間と食堂が分かれている広々とした造りで、大きな窓に面した居間には、ソファや椅子を配置して好きな所で過ごせるように工夫している。観葉植物や花などを飾り、家庭的な雰囲気づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さん居間で過ごされる事が多く、また、その時その時の気持ちに応じて自分のお部屋で過ごす事も出来、自由な雰囲気が作れていると思えます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や食器・衣服など、極力本人の馴染みのものを使用できる工夫をしています。	居室には、洋服タンスの他、利用者の身体状況に応じて電動ベッドやエアーマットなどを備えている。使い慣れたタンスを持って来ている利用者もいる。室内の壁に本人の手作りのカレンダーや塗り絵、家族の写真などを飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に暮らせる建物だと思います。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800358		
法人名	株式会社 クオス		
事業所名	グループホーム ほのかの里		
所在地	夕張郡栗山町桜丘1丁目80		
自己評価作成日	平成27年2月25日	評価結果市町村受理日	平成27年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様が毎日楽しく過ごせて、ご家族様に安心して任せて頂けるように心掛けております。</p>

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0175800358-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年3月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(Bユニットアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ一人一人が理念を理解し実践しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的な運営推進会議や避難訓練等に地域の方々にも参加を頂き交流をもっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	そのような機会はありませんでした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た意見などは施設運営に役立たせて頂いております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者様の認定調査時や運営推進会議で顔を合わせる程度でした。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一切有りません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時などに入居者様の身体に注意を払うようにしています。一切有りません。		

ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に学ぶ機会はありませんでした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行えていると思います。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が頻繁に来訪され、意見要望を聞く機会をたくさん持つ事ができています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見や提案を発言しやすい雰囲気を作り、出された意見は極力反映できるよう努めております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修等に参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修などで同業者の方と交流する機会がありますが、あまり交流できていないのが実情だと思います。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にはご本人、ご家族とお話をして、入居後も都度安心できる関係づくりのために努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様も自由に要望を出せるよう、雰囲気作りを行っているつもりです。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度必要な対応を行っています。特に他のサービス利用の必要は見られませんでした。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的な作業に参加して頂く機会を作り、生活に参加している意識を作る努力をしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様は定期的に来訪され、本人の様子を見て、お話しされたり、外出されたりしております。また、夏祭りやクリスマスの際には共に参加して下さっています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪などによって、友人や馴染みの人との関係は築けていけております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃より利用者同士の会話にも注意を払い、レク等を通して良い関係を保つように注意しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	具体的な相談、支援を行ったことはありませんが、今後機会があれば必要に応じて行いたいと思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のコミュニケーションを通じて、意向を把握できていると思います。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話やご家族からの情報等から把握しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人に合った過ごし方が出来るように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者がそれぞれの介護職員から御利用者様の情報を聞き出し、作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個別記録を記入し、情報を共有しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御利用者様の状態に合わせて、その時その時に必要な柔軟な対応を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節を感じられる場所などへ行く機会を作り、暮らしを楽しむ支援を行っております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々人に合わせて行っております。		

ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員には最低週1回報告、相談をし必要があれば都度連絡しております。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の通院が頻繁に有り病院関係者とは顔なじみに成りつつあります。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その都度ご家族様と密に連絡を取って方針を話し合います。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	充分周知しております。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っています。			

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけを丁寧に行うことの大切さを全員で周知し、注意しております。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御利用者様一人一人が、自由な気持ちで生活できていると思います。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	身体的なケアが多くなってきており、一人一人の思いを十分に汲み取れていない感もありますが、一人一人のペースを大事に過ごせていると思います。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃から身だしなみには気を付けていますが、特に出かける前や行事のときには、いつもよりいい服を着て、身だしなみを整えて過ごせる支援を行っています。			

ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備等で出来る事は手伝って頂いております。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量を毎日把握して、意識的に水分が取れる支援を行っております。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には歯磨きをして頂き、重度化した利用者様の口腔ケアはスタッフが行っております。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方については、一人一人の排尿の感覚を把握し、時間毎に声かけを行っています。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	重度化した御利用者様の排便困難が目立ってきていますが、下剤などを効果的に使用することで、解決に向かっていくところ です。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒否する利用者様が多く、声かけに工夫を要しています。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	皆さん十分に休息できていると思います。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬について、職員全員で理解し、飲み忘れや間違いがないようにしています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様にやりたい事を聞いてレク等に反映しています。			

ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化している方が多く、出かける事が難しいという実情があります。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を行っている人はいないのが現状です。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙を利用したいというニーズも特に聞かれていません。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に清潔を保つように注意しております。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さん居間で過ごされたり、お部屋で過ごされたり、自由にされています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や食器・衣服など、極力本人の馴染みのものを使用できる工夫をしております。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人が出来る事はやっておりますが、常にスタッフが目を離さないようにして事故等が起こらないように注意しております。			

目標達成計画

作成日：平成 27年 3月 23日

市町村受理日：平成 27年 3月 30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の開催数が目標に達しておらず、また開催案内などが全家族に送られていない。	運営推進会議を定期的で開催し、ご家族にその意義を知って頂く。	運営推進会議のテーマを記載した開催案内と議事録を全家族に送付する。	1年
2	11	全職員が参加する定期的な会議や勉強会、個人面談などがまだ十分に行われていない。	ホーム内でのスタッフ会議、勉強会などを定期的に行う。	2か月に一度、スタッフ会議の時間を作り、定例化することを目指す。	1年
3	26	介護計画について、更新時に職員が参加して話し合う機会が依然として少ない。また、家族にも十分に説明が行えていない。	全職員の意見を反映した生活支援計画を作成し、十分な説明を家族に行う。	生活支援計画の見直し時期が近づいたところに、スタッフ同士の話し合いの時を持ち、全職員を巻き込んだ介護計画作りを行う。また、ご家族が来訪された際に介護計画についての十分な説明を行う。	1年
4	30	「医療関係経過記録」の様式があるが、十分に活用されていない。	「医療関係経過記録」を活用しやすい形にする。	「医療関係経過記録」の用紙を、ご利用者様毎にインデックスを付けて一つのファイルにまとめ、受診や健康面での変化が見られた際に逐一記入することとする。	1年
5	35	職員の救急救命訓練がしばらく実施されていない。	全職員が救急救命訓練に参加することができる。	全職員が救急救命訓練を受ける機会を設ける。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。